



ルートピアリングの設定

- [ルートピアリングについて \(1 ページ\)](#)
- [Open Shortest Path First ポリシー \(3 ページ\)](#)
- [Border Gateway Protocol ポリシー \(6 ページ\)](#)
- [クラスタ用の L3extOut ポリシーの選択 \(9 ページ\)](#)
- [ルートピアリングのエンドツーエンドフロー \(10 ページ\)](#)
- [Cisco Application Centric Infrastructure トランジットルーティングドメインとして機能するファブリック \(12 ページ\)](#)
- [GUIを使用したルートピアリングの設定 \(13 ページ\)](#)
- [NX-OS スタイルの CLI を使用したルートピアリングの設定 \(18 ページ\)](#)
- [ルートピアリングのトラブルシューティング \(20 ページ\)](#)

ルートピアリングについて

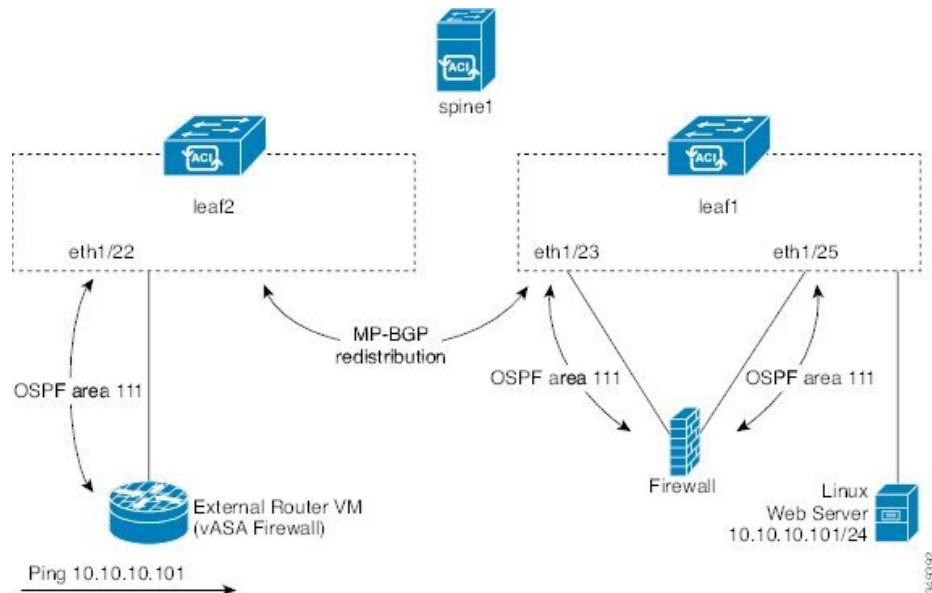
ルートピアリングは、トランジットの使用例としてより一般的なCisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックの特殊ケースで、ルートピアリングによってACIファブリックが Open Shortest Path First (OSPF) プロトコルまたは Border Gateway Protocol (BGP) プロトコルのトランジットドメインとして機能できるようになります。ルートピアリングの一般的な使用例はルートヘルスインジェクションであり、サーバのロードバランシング仮想IPがOSPFまたは内部BGP (iBGP) を使用して、ACIファブリック外にあるクライアントにアドバタイズされます。デバイスが接続されているACIリーフスイッチとピアリングしたり、ルートを交換したりできるように、ルートピアリングを使用してOSPFピアリングやBGPピアリングをサーバデバイス上に設定したりすることができます。

次のプロトコルは、ルートピアリングをサポートしています。

- OSPF
- OSPFv3
- iBGPv4
- iBGPv6
- スタティックルート

次の図に、ルートピアリングの一般的な導入方法を示します。

図 1:一般的なルートピアリングトポロジ



図に示すように、ルートピアリングを設定してサービスグラフを導入することによって、Webサーバのパブリック IP アドレスがファイアウォールを介して外部ルータにアドバタイズされます。ファイアウォールの各レッグに OSPF ルーティングポリシーを導入する必要があります。通常、これを行うには、13extOut ポリシーを導入します。これにより、Webサーバの到達可能性情報がファイアウォールを介してボーダーリーフスイッチと外部ルータに OSPF でアドバタイズされるようになります。

ファブリック内のリーフスイッチ間のルート配布は Multi-Protocol Border Gateway Protocol (MP-BGP) により内部的に実行されます。

ルートピアリングトポロジのより詳しい例については、[ルートピアリングのエンドツーエンドフロー \(10 ページ\)](#) を参照してください。

13extOut ポリシーの設定の詳細については、『*Cisco Application Centric Infrastructure Fundamentals Guide*』を参照してください。



- (注) ポイントツーポイントの非ブロードキャストモードは、Adaptive Security Appliance (ASA) ではサポートされていません。Application Policy Infrastructure Controller (APIC) からポイントツーポイントの非ブロードキャストモード設定を削除する必要があります (存在する場合)。

次に、l3extOut の 2 つの例 (OspfExternal と OspfInternal) を示します。これらのポリシーは、[図 1: 一般的なルートピアリングトポロジ \(2 ページ\)](#) のファイアウォールデバイスの外部レッグと内部レッグに導入されます。l3extOut ポリシーは、ファブリックリーフがトラフィックを分類する方法と、サービスデバイスに対してルートをインポートまたはエクスポートする方法も制御する 1 つ以上のプレフィックスベースの EPG (l3extInstP) を指定します。l3extOut ポリシーには、そのポリシーの下で指定される OSPF のエリアごとのポリシー (ospfExtP) と 1 つ以上の OSPF インターフェイスポリシー (ospfIfPol) が含まれています。

次に、値「100」で設定される area-Id を持つ OSPF エリアの例を示します。

```
<ospfExtP areaId="100" areaType="regular" areaCtrl="redistribute"/>
```

エリアタイプは「regular」に設定し、エリア制御属性は「redistribute」に設定します。

OSPF インターフェイスポリシーで、1 つ以上の OSPF インターフェイスタイマーを指定します。

```
<ospfIfPol name="ospfIfPol" ctrl="mtu-ignore" nwT="bcast" xmitDelay="1" helloIntvl="10"
  deadIntvl="40" status="created,modified"/>
```

デフォルトタイマーが正常であれば、このポリシーを指定する必要はありません。このポリシーでは、特定のタイマーをデフォルト値から変更し、次の関係を使用することによって、1 つ以上のインターフェイスに関連付けることができます。

```
<l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/25]" ifInstT="ext-svi"
  encap="vlan-3844" addr="30.30.30.100/28" mtu="1500"/>
```

l3extRsPathL3OutAtt の関係の属性は次のとおりです。

- ifInstT: 論理インターフェイスタイプ。通常は「ext-svi」。
- encap: このインターフェイスを作成するときは VLAN カプセル化を指定する必要があります。カプセル化はサービスデバイスにプッシュされます。
- addr: この l3extOut を導入するファブリックリーフで作成された SVI インターフェイスの IP アドレス。

次のポリシーで、l3extOut ポリシーをどこに導入するかを制御します。

```
<l3extNodeP name="bLeaf-101">
  <l3extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="180.0.0.11"/>
  <l3extLIIfP name="port1f">
    <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-teth1/251"
      ifInstT="ext-svi" encap="vlan-3844" addr="30.30.30.100/28" mtu="1500"/>
    <ospfIfP authKey="tecom" authType="md5" authKeyId='1'>
      <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName="ospfIfPol"/>
    </ospfIfP>
  </l3extLIIfP>
</l3extNodeP>
```

l3extOut ポリシーは、サービスデバイスが接続されているリーフポートと同じものに導入する必要があります。

scope=import-security 属性は次を実行します。

- データプレーン内のトラフィックのフローを制御する
- このルートをアドバタイズする外部デバイスへのディレクティブとして機能する



- (注) ルートピアリングを正しく動作させるには、`l3extRsPathL3OutAtt` の関係が、デバイスを表す `vnsCDev` の下の `RsCIfPathAtt` の関係と同じファブリックの宛先を指している必要があります。

OspfExternal ポリシー

OspfInternal ポリシー

仮想サービス

```
<polUni>
  <fvTenant name="common">
    <fvCtx name="commonctx">
      <fvRsCtxToExtRouteTagPol tnL3extRouteTagPolName="myTagPol"/>
    </fvCtx>
    <l3extRouteTagPol tag="212" name="myTagPol"/>
    <l3extOut name="OspfExternal" status="created,modified">
      <l3extLNodeP name="bLeaf-101">
        <l3extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="180.0.0.8/28"/>
        <l3extLIIfP name="portIf">
          <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/23]"
            ifInstT="ext-svi" encap="vlan-3843" addr="40.40.40.100/28" mtu="1500"/>
          <ospfIfP authKey="tecom" authType="md5" authKeyId='1'>
            <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName="ospfIfPol"/>
          </ospfIfP>
        </l3extLIIfP>
      </l3extLNodeP>
      <ospfExtP areaId="100" areaType="regular" areaCtrl="redistribute"/>
      <l3extInstP name="ExtInstP">
        <l3extSubnet ip="40.40.40.100/28" scope="import-security"/>
        <l3extSubnet ip="10.10.10.0/24" scope="import-security"/>
      </l3extInstP>
      <l3extRsEctx tnFvCtxName="commonctx"/>
    </l3extOut>
    <ospfIfPol name="ospfIfPol" ctrl="mtu-ignore" nwT="bcast" xmitDelay="1" helloIntvl="10"
      deadIntvl="40" status="created,modified"/>
  </fvTenant>
</polUni>

<polUni>
  <fvTenant name="tenant1">
    <l3extRouteTagPol tag="213" name="myTagPol"/>
    <fvCtx name="tenant1ctx1">
      <fvRsCtxToExtRouteTagPol tnL3extRouteTagPolName="myTagPol"/>
    </fvCtx>
    <l3extOut name="OspfInternal" status="created,modified">
      <l3extLNodeP name="bLeaf-101">
        <l3extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="180.0.0.11"/>
        <l3extLIIfP name="portIf">
          <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/25]"
            ifInstT="ext-svi" encap="vlan-3844" addr="30.30.30.100/28" mtu="1500"/>
          <ospfIfP authKey="tecom" authType="md5" authKeyId='1'>
            <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName="ospfIfPol"/>
          </ospfIfP>
        </l3extLIIfP>
      </l3extLNodeP>
    </l3extOut>
  </fvTenant>
</polUni>
```

```

    <ospfExtP areaId="100" areaType="regular" areaCtrl="redistribute"/>
    <13extInstP name="IntInstP">
      <13extSubnet ip="30.30.30.100/28" scope="import-security"/>
      <13extSubnet ip="20.20.20.0/24" scope="import-security"/>
    </13extInstP>
    <13extRsEctx tnFvCtxName="tenant1ctx1"/>
  </13extOut>
  <ospfIfPol name="ospfIfPol" ctrl="mtu-ignore" nwT="bcast" xmitDelay="1" helloIntvl="10"
    deadIntvl="40" status="created,modified"/>
</fvTenant>
</polUni>

```

OspfExternalInstP ポリシーは、プレフィックスの 40.40.40.100/28 と 10.10.10.0/24 をプレフィックスベースのエンドポイントのアソシエーションに使用する必要があることを指定します。また、このポリシーは、プレフィックスの 20.20.20.0/24 をサービスデバイスにエクスポートするようにファブリックに指示します。

```

<13extInstP name="OspfExternalInstP">
  <13extSubnet ip="40.40.40.100/28" scope="import-security"/>
  <13extSubnet ip="10.10.10.0/24" scope="import-security"/>
  <13extSubnet ip="20.20.20.0/24" scope="export"/>
</13extInstP>

```

bleaf-101 ポリシーは、この 13extOut ポリシーを導入する場所を制御します。

```

<13extLNodeP name="bLeaf-101">
  <13extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="180.0.0.8/28"/>
  <13extLIIfP name="portIf">
    <13extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/23]"
      ifInstT="ext-svi" encap="vlan-3843" addr="40.40.40.100/28" mtu="1500"/>
    <!-- <ospfIfP authKey="tecom" authType="md5" authKeyId='1'> -->
    <ospfIfP>
      <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName="ospfIfPol"/>
    </ospfIfP>
  </13extLIIfP>
</13extLNodeP>

```

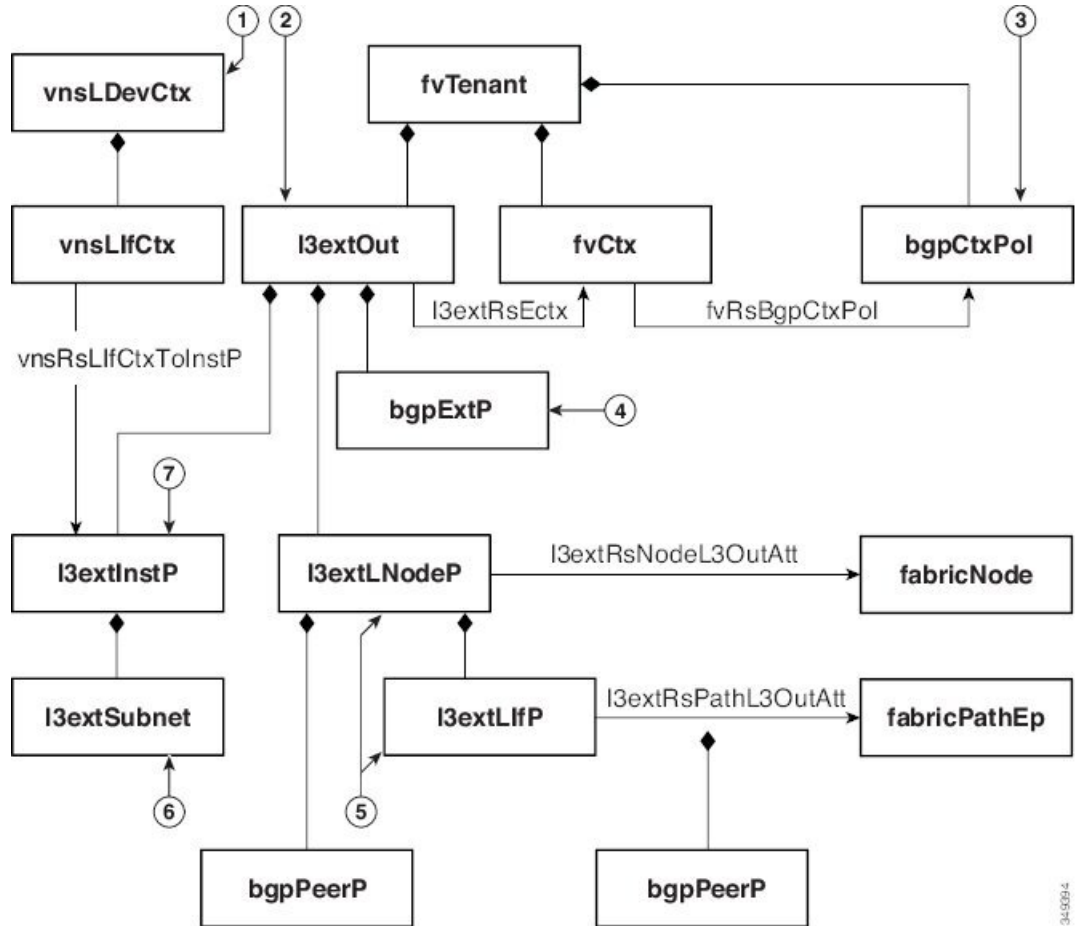
仮想サービスはルートピアリングとともに導入できますが、vnsCIf オブジェクトでの 13extRsPathL3OutAtt 検証は実行されません。このデータパスは、13extOut オブジェクトが仮想サービスデータが接続されている正しいリーフに導入されている場合にのみ動作します。

Border Gateway Protocol ポリシー

内部 Border Gateway Protocol (iBGP) を使用してデバイスの外部インターフェイスにルートピアリングを設定し、内部インターフェイスに静的ルートを設定できます。追加設定なしにデバイスの内部インターフェイスと外部インターフェイスの両方に iBGP を設定することはできません。これは、インターフェイスが異なる自律システムに存在する必要があるため、相互自律システム再配布ポリシーをプッシュダウンしないためです。

次の図に、ルートピアリング オブジェクトの関係を示します。

図 3: iBGP ルートピアリングオブジェクトの関係



1. vnsLDevCtx : デバイス選択ポリシー。
2. I3extOut : 単一の自律システム用のすべての BGP ポリシーが含まれます。
3. bgpCtxPol : コンテキスト単位の BGP タイマー。
4. bgpExtP : ASN ポリシー単位の BGP。
5. I3extLIfP/I3extLNodeP : これらのエンドポイントグループ (EPG) を導入するノードまたはポートを制御します。
6. I3extSubnet : ファブリックからのエクスポートするサブネットとファブリックにインポートするサブネット。
7. I3extInstP : プレフィックスベースの EPG。

次のポリシーは、外部インターフェイスに iBGPv4/v6 を設定します。

```
<polUni>
  <fvTenant name="common">
    <fvCtx name="commonctx">
      <fvRsBgpCtxPol tnBgpCtxPolName="timer-3-9"/>
    </fvCtx>
  </fvTenant>
</polUni>
```

```

    <fvRsCtxToExtRouteTagPol tnL3extRouteTagPolName="myTagPol"/>
  </fvCtx>
  <l3extRouteTagPol tag="212" name="myTagPol"/>
  <bgpCtxPol grCtrl="helper" holdIntvl="9" kaIntvl="3" name="timer-3-9" staleIntvl="30"/>

  <l3extOut name="BgpExternal" status="created,modified">
    <l3extLNodeP name="bLeaf-101">
      <!-- <bgpPeerP addr="40.40.40.102/32 "ctrl="send-com"/> -->
      <l3extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="180.0.0.8/28">
        <l3extLoopBackIfP addr="50.50.50.100/32"/>
      </l3extRsNodeL3OutAtt>
      <l3extLIIfP name="portIf">
        <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/23]"
          ifInstT="ext-svi" encap="vlan-3843" addr="40.40.40.100/28 "mtu="1500">
          <bgpPeerP addr="40.40.40.102/32 "ctrl="send-com"/>
        </l3extRsPathL3OutAtt>
      </l3extLIIfP>
    </l3extLNodeP>
  </l3extOut>
  <bgpExtP/>
  <l3extInstP name="ExtInstP">
    <l3extSubnet ip="40.40.40.100/28 "scope="import-security"/>
    <l3extSubnet ip="10.10.10.0/24 "scope="import-security"/>
    <l3extSubnet ip="20.20.20.0/24 "scope="export-rtctrl"/>
  </l3extInstP>
  <l3extRsEctx tnFvCtxName="commonctx"/>
</l3extOut>
</fvTenant>
</polUni>

```

iBGP ピアは、物理インターフェイス レベルまたはループバック レベルで設定できます。次に、物理インターフェイス レベルで設定された iBGP ピアの例を示します。

```

<l3extLIIfP name="portIf">
  <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/23]"
    ifInstT="ext-svi" encap="vlan-3843" addr="40.40.40.100/28 "mtu="1500">
    <bgpPeerP addr="40.40.40.102/32 "ctrl="send-com"/>
  </l3extRsPathL3OutAtt>
</l3extLIIfP>

```

この場合、ファブリック上で実行する iBGP プロセスはスイッチ仮想インターフェイス (SVI) IP アドレス 40.40.40.100/28 を使用して、ネイバーとピアリングします。ネイバーは、IP アドレス 40.40.40.102/32 のサービス デバイスです。

次に、iBGP ピアの定義が論理ノード レベル (l3extLNodeP の下) に移動され、ループバック インターフェイスが作成されている例を示します。

```

<l3extLNodeP name="bLeaf-101">
  <bgpPeerP addr="40.40.40.102/32 "ctrl="send-com"/>
  <l3extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="180.0.0.8/28">
    <l3extLoopBackIfP addr="50.50.50.100/32"/>
  </l3extRsNodeL3OutAtt>
  <l3extLIIfP name="portIf">
    <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/23]"
      ifInstT="ext-svi" encap="vlan-3843" addr="40.40.40.100/28 "mtu="1500">
    </l3extRsPathL3OutAtt>
  </l3extLIIfP>
</l3extLNodeP>

```

この例では、iBGP プロセスはループバック アドレスを使用してネイバーとピアリングします。ループバックが設定されていない場合は、ファブリックは rtrId で指定された IP アドレスを使用してネイバーとピアリングします。

次に、デバイスの内部インターフェイス用にファブリック上で静的ルートを設定する例を示します。

```
<polUni>
  <fvTenant name="tenant11">
    <l3extOut name="StaticInternal" status="created,modified">
      <l3extLNodeP name="bLeaf-201">
        <l3extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="180.0.0.11">
          <ipRouteP ip="20.20.20.0/24">
            <ipNexthopP nhAddr="30.30.30.102/32"/>
          </ipRouteP>
        </l3extRsNodeL3OutAtt>
        <l3extLIfP name="portIf">
          <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/25]"
            ifInstT="ext-svi" encap="vlan-3844" addr="30.30.30.100/28" mtu="1500"/>
        </l3extLIfP>
      </l3extLNodeP>
      <l3extInstP name="IntInstP">
        <l3extSubnet ip="20.20.20.0/24" scope="import-security"/>
      </l3extInstP>
      <l3extRsEctx tnFvCtxName="tenant1ctx1"/>
    </l3extOut>
  </fvTenant>
</polUni>
```

クラスタ用の L3extOut ポリシーの選択

特定の l3extOut ポリシーを、選択ポリシー vnsLIfCtx を使用して論理デバイスのインターフェイスに関連付けることができます。次に、これを実現する例を示します。

```
<vnsLDevCtx ctrctNameOrLbl="webCtrct1" graphNameOrLbl="WebGraph" nodeNameOrLbl="FW">
  <vnsRsLDevCtxToLDev tDn="uni/tn-tenant1/lDevVip-Firewall"/>
  <vnsLIfCtx connNameOrLbl="internal">
    <vnsRsLIfCtxToInstP tDn="uni/tn-tenant1/out-OspfInternal/instP-IntInstP"
      status="created,modified"/>
    <vnsRsLIfCtxToLIf tDn="uni/tn-tenant1/lDevVip-Firewall/lIf-internal"/>
  </vnsLIfCtx>
  <vnsLIfCtx connNameOrLbl="external">
    <vnsRsLIfCtxToInstP tDn="uni/tn-common/out-OspfExternal/instP-ExtInstP"
      status="created,modified"/>
    <vnsRsLIfCtxToLIf tDn="uni/tn-tenant1/lDevVip-Firewall/lIf-external"/>
  </vnsLIfCtx>
</vnsLDevCtx>
```

vnsRsLIfCtxToInstP の関係を使用して、サービスデバイスのこのレッグと関連付ける特定のプレフィックススペースの EPG (l3extInstP) を選択します。この関係に、redistribute プロトコル再配布プロパティを指定できます。redistribute プロパティのデフォルト値は「ospf,bgp」です。redistribute をデフォルト値のままにすると、各レッグで設定されているルーティングプロトコルが Application Policy Infrastructure Controller (APIC) によって自動検出され、適切な再配布設定にプッシュされます。自動設定は、常に Interior Gateway Protocol (OSPF) から外部ゲートウェイ プロトコル (BGP) に再配布します。

静的または接続済みといった特定の再配布設定を使用する場合は、それらの設定をこの関係に追加します。たとえば、redistribute="ospf,bgp,static" は、自動検出設定と redistribute-static をサービス デバイスにプッシュします。

このプロパティをデフォルト値を含まない特定の値（たとえば、`redistribute="ospf,static,connected"`）に設定すると、それらの設定がそのままサービスデバイスにプッシュされます。これは、APICによって選択されたデフォルト値を上書きする場合に役に立ちます。



- (注) この関係は `l3extOut` 自体でなく、EPG (`l3extInstP`) を指します。これは、`l3extOut` ポリシーにはこのような EPG が複数存在する可能性があり、別のデバイス選択ポリシーがそれらの EPG を指していることがあるためです。これにより、さまざまなサービスグラフによってインポートまたはエクスポートされるプレフィックスを細かく制御できます。

関連付けられた具象デバイスには `vnsRsCifPathAtt` オブジェクトが必要です。このオブジェクトでは、デバイスを同じファブリック リーフに導入します（下記参照）。

```
<vnsCDev name="ASA">
  <vnsCIf name="Gig0/0">
    <vnsRsCifPathAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/23]"/>
  </vnsCIf>
  <vnsCIf name="Gig0/1">
    <vnsRsCifPathAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/25]"/>
  </vnsCIf>
</vnsCDev>
```

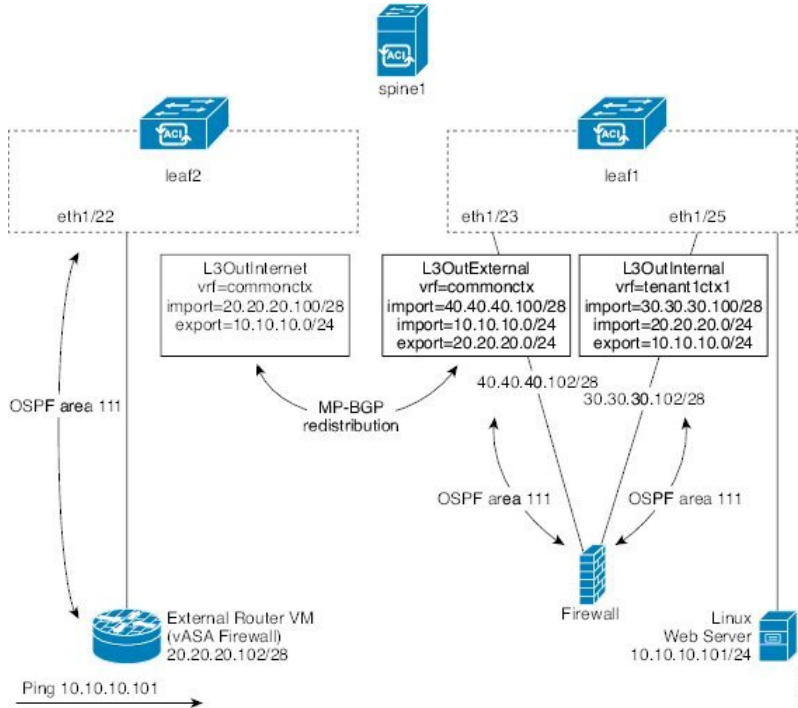


- (注) ルートピアリングを設定した場合は、`vnsLIIfCtx` セレクタにブリッジドメインを設定する必要がありません。ブリッジドメインの関係 (`vnsRsLIIfCtxToBD`) と `l3extInstP` の関係 (`vnsRsLIIfCtxToInstP`) の両方を設定しようとすると、エラーになります。

ルートピアリングのエンドツーエンドフロー

次の図に、ルートピアリングがエンドツーエンドでどのように動作するかを示します。

図 4: ルートピアリングのエンドツーエンドフロー



この図には、ルートピアリングを使用してLinux WebサーバのIPアドレスが外部ルータにアドバタイズされる、単一スパインスイッチトポロジである2台のリーフスイッチの例が示されています。Linux WebサーバはIPアドレス10.10.10.101にあり、leaf1に接続するESXサーバ上でホストされています。通常のブリッジドメインベースのエンドポイントグループ (EPG) が導入されており、Webサーバから発信されるトラフィックを表しています。

2アームのルーティング可能なファイアウォールから構成され、両方のアームをleaf1に接続したサービスグラフを導入します。ファイアウォールデバイスでは、Virtual Routing and Forwarding (VRF) 分割が行われています。つまり、ファイアウォールの各アームが異なるVRFのリーフ (コンテキスト) に接続されています。VRF分割は、トラフィックがリーフスイッチによって短絡されるのではなく、サービスデバイスを通じて確実にルーティングされるようにするために必要です。外部トラフィックはleaf2に導入されているl3extOut (L3OutInternet) で表されます。このシナリオでは、leaf2をファブリックの境界リーフスイッチと見なすことができます。L3OutInternetとWebサーバEPG間にコントラクトを導入できます。このコントラクトは、ファイアウォールデバイスを含むサービスグラフに関連付けられます。

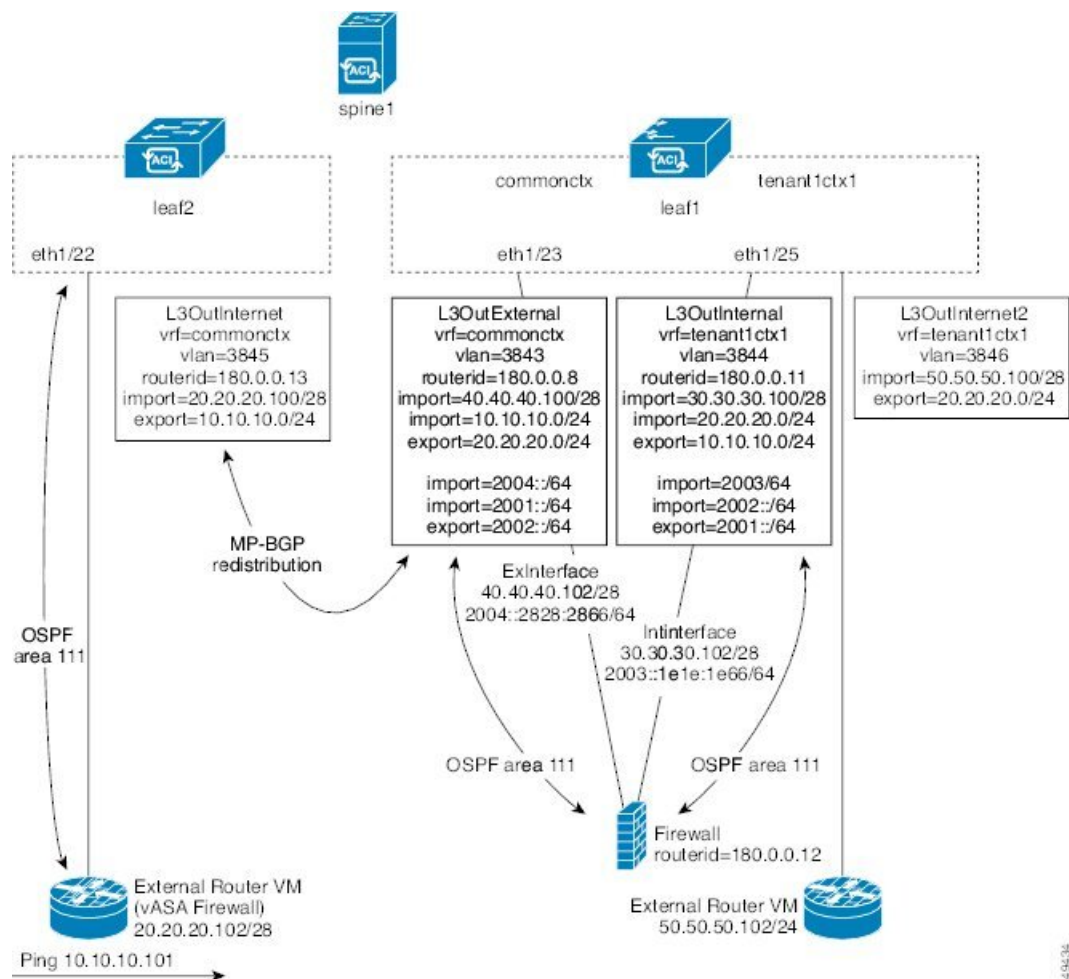
Webサーバルートを外部にパブリッシュするには、2つのl3extOut (L3OutExternalとL3OutInternal) を、サービスデバイスを接続するリーフスイッチポートに展開します。その結果、Open Shortest Path First (OSPF) ピアリングセッションが、両方のコンテキスト (commonctxとtenant1ctx1) のリーフスイッチとファイアウォール間で確立されます。これらのl3extOutのexport属性が境界リーフスイッチへのルーティング情報のアドバタイズ方法を制御します。ルートはマルチプロトコルBorder Gateway Protocol (MP-BGP) の再配布を使用して、ファブリックリーフスイッチの間で内部的に交換されます。

最終的に、別の OSPF セッションを使用して Web サーバルートが外部ルータ（IP アドレス 20.20.20.102）にアドバタイズされます。これにより、静的ルートを手動で設定することなく、外部ルータから Web サーバを ping できるようになります。

Cisco Application Centric Infrastructure トランジットルーティングドメインとして機能するファブリック

Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックをトランジットルーティングドメインとして導入できるので、ACIの受渡しポイント (POD) が他の POD間のトランジットルーティングドメインとして機能している場合に便利です。次の図に、2つの境界リーフスイッチへの2つの外部 L3extOut (L3OutInternet と L3OutInternet2) の展開を示します。これらの L3extOut 間には関連付けられているコントラクトがあり、そのコントラクトはファイアウォールサービス デバイスを含む単一ノードのサービス グラフに適用されています。

図 5: ACI トランジットルーティングドメインとして機能するファブリック



36/34/34

2つの追加 `13extOut` は、ファイアウォール デバイスの外部レッグと内部レッグに導入され、それらの間に **Open Shortest Path First (OSPF)** ピアリングセッションを確立します。インポートセキュリティ制御 (`import-security` 属性) を適切に設定することで、境界リーフスイッチへの ACI ファブリックの通過を許可するルートを制御できます。

GUI を使用したルートピアリングの設定

ルートピアリングを設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

1. デバイスと Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリック間のカプセル化 VLAN に使用するスタティック VLAN プールを作成します。

[GUI を使用したスタティック VLAN プールの作成 \(13 ページ\)](#) を参照してください。

2. デバイスの場所 (リーフ ノード/パス) と VLAN プールを結びつける外部ルーテッドドメインを作成します。

[GUI を使用した外部ルーテッドドメインの作成 \(14 ページ\)](#) を参照してください。

3. ルートピアリングで ACI ファブリックのルーティング設定を指定するために使用する外部ルーテッドネットワークを作成します。

[GUI を使用した外部ルーテッドネットワークの作成 \(15 ページ\)](#) を参照してください。

4. デバイスで使用するルータ ID を指定する新しいルータ設定を作成します。

[GUI を使用したルータ設定の作成 \(17 ページ\)](#) を参照してください。

5. サービスグラフのアソシエーションを作成します。これには、外部ルーテッドネットワークポリシーおよびルータ設定とデバイス選択ポリシーの関連付けが含まれます。

「[GUI を使用したサービスグラフアソシエーションの作成 \(17 ページ\)](#)」を参照してください。

GUI を使用したスタティック VLAN プールの作成

外部ルーテッドネットワーク設定を作成する前に、デバイスとファブリック間のカプセル化 VLAN に使用するスタティック VLAN プールを作成する必要があります。

ステップ 1 メニューバーで、**[Fabric]** > **[Access Policies]** の順に選択します。

ステップ 2 **[Navigation]** ペインで、**[Pools]** > **[VLAN]** の順に選択します。

ステップ 3 **[Work]** ペインで、**[Actions]** > **[Create VLAN Pool]** の順に選択します。

ステップ 4 **[Create VLAN Pool]** ダイアログボックスで、下記で指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します。

- a) **[Allocation Mode]** オプション ボタンでは **[Static Allocation]** を選択します。
- b) **[Encap Blocks]** セクションでは、**[+]** をクリックします。

ステップ 5 **[Create Ranges]** ダイアログボックスで、一意の VLAN 範囲を入力し、**[OK]** をクリックします。

ステップ 6 **[Create VLAN Pool]** ダイアログボックスで、**[Submit]** をクリックします。

GUI を使用した外部ルーテッド ドメインの作成

デバイスの場所 (リーフ ノード/パス) とルート ピアリング用に作成するスタティック VLAN プールを結びつける外部ルーテッド ドメインを作成する必要があります。

ステップ 1 メニュー バーで、**[ファブリック (FABRIC)]** > **[アクセス ポリシー (Access Policies)]** の順に選択します。

ステップ 2 ナビゲーションウィンドウで、**[スイッチポリシー (Switch Policies)]** を右クリックして、**[インターフェイス、PC、VPC の設定 (Configure Interface, PC, and VPC)]** を選択します。

ステップ 3 **[Configure Interface, PC, and VPC]** ダイアログボックスで、Application Policy Infrastructure Controller (APIC) に接続されるスイッチ ポートを設定し、次の操作を実行します。

- a) スイッチ図の横にある大きい **[+]** アイコンをクリックし、新しいプロファイルを作成して VLAN を APIC 用に設定します。
- b) **[Switches]** フィールドのドロップダウン リストから、APIC を接続するスイッチのチェックボックスをオンにします
- c) **[Switch Profile Name]** フィールドに、プロファイルの名前を入力します。
- d) **[+]** アイコンをクリックして、ポートを設定します。
- e) **[Interface Type]** 領域で、**[Individual]** オプション ボタンが選択されていることを確認します。
- f) **[Interfaces]** フィールドで、APIC が接続されるポートを入力します。
- g) **[Interface Selector Name]** フィールドに、ポートプロファイルの名前を入力します。
- h) **[Interface Policy Group]** フィールドで、**[Create One]** オプション ボタンをクリックします。
- i) **[Attached Device Type]** ドロップダウン リストで、**[External Routed Devices]** を選択します。
- j) **[Domain]** オプション ボタンでは、**[Create One]** オプション ボタンをクリックします。
- k) **[Domain Name]** フィールドに、ドメイン名を入力します
- l) VLAN プールを前に作成していた場合は、**[VLAN]** オプション ボタンとして、**[Choose One]** オプション ボタンをクリックします。その他の場合は、**[Create One]** オプション ボタンをクリックします。

既存の VLAN プールを選択する場合は、**[VLAN Pool]** ドロップダウン リストで、VLAN プールを選択します。

VLAN プールを作成する場合は、**[VLAN Range]** フィールドに VLAN 範囲を入力します。

- m) **[Save]** をクリックし、**[Save]** をもう一度クリックします。
- n) **[送信 (Submit)]** をクリックします。

GUIを使用した外部ルーテッドネットワークの作成

外部ルーテッドネットワークは、ルートピアリングでCisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックのルーティング設定を指定します。

-
- ステップ 1** メニューバーで、[Tenants] > [All Tenants] の順に選択します。
- ステップ 2** [Work] ペインで、テナントの名前をダブルクリックします。
- ステップ 3** [Navigation] ペインで、[tenant_name] > [Networking] > [External Routed Networks] を選択します。
- ステップ 4** [Work] ペインで、[Actions] > [Create Routed Outside] を選択します。
- ステップ 5** [Create Routed Outside] ダイアログボックスで、下記で指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します。
- ダイナミックルーティングの場合は、[BGP] チェックボックスまたは [OSPF] チェックボックスをオンにします。

Open Shortest Path First (OSPF) の場合は、追加の OSPF 固有のフィールドに入力します。
 - [Private Network] ドロップダウンリストで、デバイスがルートを交換するプライベートネットワークを選択します。
 - [External Routed Domain] ドロップダウンリストで、ルートピアリング用に作成した外部ルーテッドドメインを選択します。
 - [Nodes and Interfaces Protocol Profiles] セクションで、[+] をクリックします。
- ステップ 6** [Create Node Profile] ダイアログボックスで、下記で指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します。
- [Nodes] セクションで、[+] をクリックします。
- ステップ 7** [Select Node] ダイアログボックスで、下記に指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します。
- [Node ID] ドロップダウンリストで、デバイスを接続するノード ID を選択します。
 - 物理デバイスの場合は、物理デバイスをファブリックに接続するノードの ID にする必要があります。
 - 仮想デバイスの場合は、仮想マシンをホストしているサーバが接続するノードの ID にする必要があります。
 - [Router ID] フィールドに、ACI ファブリックがルーティングプロトコルプロセスで使用するルータ ID を入力します。
 - ACI ファブリックとデバイス間でスタティックルーティングを使用する場合は、[Static Routes] セクションで [+] をクリックします。それ以外の場合は、[ステップ 10 \(16 ページ\)](#) に進みます。
- ステップ 8** [Create Static Route] ダイアログボックスで、下記で指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します。
- [Prefix] セクションには、静的ルートのプレフィックスを入力します。
 - [Next Hop Addresses] セクションでは、[+] をクリックします。
 - 静的ルートのネクストホップ IP アドレスを入力します。

d) [Update] をクリックします。

ステップ 9 [OK] をクリックします。

ステップ 10 [Select Node] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

ステップ 11 ダイナミックルーティングプロトコルとしてデバイスで BGP を使用する場合は、[BGP Peer Connectivity Profiles] セクションで、[+] をクリックします。それ以外の場合は、[ステップ 14 \(16 ページ\)](#) に進みます。

ステップ 12 [Create Peer Connectivity Profile] ダイアログボックスで、下記で指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します。

a) [Peer Address] フィールドで、BGP セッションを確立するデバイスの IP アドレスであるピアアドレスを入力します。

ステップ 13 [Create Peer Connectivity Profile] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

ステップ 14 [Interface Profiles] セクションで、[+] をクリックします。

ステップ 15 [Create Interface Profile] ダイアログボックスで、必要に応じてフィールドに入力します。

a) ダイナミックルーティングプロトコルとして OSPF を使用する場合は、OSPF プロファイル情報を入力します。

ステップ 16 [Interface] セクションでは、[SVI] タブを選択します。

ステップ 17 [Interface] セクションで、[+] をクリックします。

ステップ 18 [Select SVI Interface] ダイアログボックスで、下記に指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します。

a) [Path Type] オプション ボタンでは、デバイスのファブリックへの接続方法と一致するタイプを選択します。

b) [Path] ドロップダウン リストで、デバイスをファブリックに接続するパスを選択します。

- 物理デバイスの場合は、物理デバイスをファブリックに接続するパスです。

- 仮想デバイスの場合は、仮想マシンをホストしているサーバを接続するパスです。

c) [Encap] フィールドで、カプセル化 VLAN を指定します。

d) [IP Address] フィールドで、ファブリック SVI インターフェイスで使用する IP アドレスを指定します。

e) [MTU (bytes)] フィールドで、最大伝送ユニット サイズをバイト単位で指定します。

デフォルト値の「inherit」の場合、ACIではデフォルト値の「9000」が使用され、リモートデバイスでは通常はデフォルト値の「1500」が使用されます。異なる MTU 値を指定すると、ACI とリモートデバイス間のピアリングで問題が発生する可能性があります。リモートデバイスの MTU 値を「1500」に設定した場合は、リモートデバイスの L3Out オブジェクトの MTU 値を「9000」に設定して ACI の MTU 値と一致させます。

ステップ 19 [OK] をクリックします。

ステップ 20 [Create Interface Profile] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

ステップ 21 [Create Node Profile] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

ステップ 22 [Create Routed Outside] ダイアログボックスで、[Next] をクリックします。

- ステップ 23 [External EPG Networks] セクションで、[+] をクリックします。
- ステップ 24 [Create External Network] ダイアログボックスで、下記で指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します。
- a) [Subnet] セクションで、[+] をクリックします。
- ステップ 25 [Create Subnet] ダイアログボックスで、下記で指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します。
- a) [IP Address] フィールドに IP アドレスまたはサブネット マスクを入力します。
- サブネットマスクは、従来のルーティングプロトコル設定で定義するネットワーク ステートメントと同等です。
- ステップ 26 [OK] をクリックします。
- ステップ 27 (任意) 必要に応じて、さらにサブネットを作成します。
- ステップ 28 [Create External Network] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- ステップ 29 [Create Routed Outside] ダイアログボックスで、[Finish] をクリックします。

GUI を使用したルータ設定の作成

ルーティングプロトコル設定の一部として、デバイスで使用するルータ ID を指定する必要があります。

-
- ステップ 1 メニューバーで、[Tenants] > [All Tenants] の順に選択します。
- ステップ 2 [Work] ペインで、テナントの名前をダブルクリックします。
- ステップ 3 [Navigation] ペインで、テナント名 > [Services] > [L4-L7] > [Router configurations] を選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインの [Router Configurations] テーブルで、[+] をクリックします。
- ステップ 5 デバイスでルータ ID として使用する IP アドレスを入力します。
- ステップ 6 [更新 (Update)] をクリックします。

GUI を使用したサービス グラフ アソシエーションの作成

サービス グラフのアソシエーションを作成する必要があります。これには、外部ルーテッドネットワーク ポリシーおよびルータ設定とデバイス選択ポリシーの関連付けが含まれます。

-
- ステップ 1 メニューバーで、[テナント (Tenants)] > [すべてのテナント (ALL Tenants)] の順に選択します。
- ステップ 2 [Work] ペインで、テナントの名前をダブルクリックします。
- ステップ 3 ナビゲーションウィンドウで、[テナント (Tenant)] / [テナント名 (*tenant_name*)] > [サービス (Services)] > [L4-L7] > [デバイス選択ポリシー (Device Selection Policies)] > [デバイス選択ポリシー (*device_selection_policy*)] の順に選択します。

- ステップ 4** ナビゲーションウィンドウで、[テナント名 (*tenant_name*)] > [L4 ~ L7 サービス (L4-L7 Services)] > [デバイス選択ポリシー (Device Selection Policies)] > [デバイス選択ポリシー (*device_selection_policy*)] の順に選択します。[デバイス選択ポリシー (*device_selection_policy*)] は、Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックでルートピアリングを実行する際に使用するデバイス選択ポリシーです。
- ステップ 5** [Work] ペインの [properties] セクションにある [Router Config] ドロップダウンリストで、ルーティングピアリング用に作成したルータ設定を選択します。
- ステップ 6** [Navigation] ペインで、選択したデバイス選択ポリシーを展開し、ACI ファブリックとピアリングするインターフェイスを選択します。
- ステップ 7** [Work] ペインの [properties] セクションにある [Associated Network] オプションボタンで、[L3 External Network] を選択します。
- ステップ 8** [L3 External Network] ドロップダウンリストで、ルートピアリング用に作成した外部ルーテッドネットワークを選択します。

次のように変更されます。

- 外部ルーテッドネットワークと関連付けたインターフェイスのカプセル化 VLAN が、外部ルーテッドネットワーク インターフェイス プロファイルの一部として設定した VLAN と一致するようにプログラミングされる
- 外部ルーテッドネットワーク インターフェイスとルーティングプロトコル設定がルーフスイッチにプッシュされる
- ルーティングプロトコル設定がデバイスにプッシュされます

NX-OS スタイルの CLI を使用したルートピアリングの設定

ここでは、ルートピアリングを設定する NX OS スタイルの CLI のコマンドの例を示します。

-
- ステップ 1** コンフィギュレーション モードを開始します。

例：

```
apicl# configure
```

- ステップ 2** テナントのコンフィギュレーション モードを開始します。

例：

```
apicl(config)# tenant 101
```

- ステップ 3** サービス グラフを追加し、それをコントラクトと関連付けます。

例：

```
apicl(config-tenant)# 1417 graph g1 contract c1
```

ステップ 4 デバイス クラスタに関連付けるノード（サービス）を追加します。

例：

```
apicl(config-graph)# service ASA_FW device-cluster-tenant 101 device-cluster ASA_FW1
```

ステップ 5 サービス機能で、コンシューマ コネクタとプロバイダー クラスタ インターフェイスを設定します。

例：

```
apicl(config-service)# connector consumer cluster-interface provider
```

ステップ 6 クラスタ インターフェイスで、サービス デバイスでのルートピアリングで使用するレイヤ 3 Outside (l3extOut) とエンドポイントグループ (l3extInstP) を指定し、コネクタのコンフィギュレーションモードを終了します。

例：

```
apicl(config-connector)# l4l7-peer tenant 101 out l101 epg e101 redistribute bgp
apicl(config-connector)# exit
```

ステップ 7 プロバイダー コネクタとコンシューマのクラスタ インターフェイスにステップ 5 とステップ 6 を繰り返します。

例：

```
apicl(config-service)# connector provider cluster-interface consumer
apicl(config-connector)# l4l7-peer tenant 101 out l101 epg e101 redistribute bgp
apicl(config-connector)# exit
```

ステップ 8 （任意）コネクタからエンドポイントグループの関連付けを解除する場合は、**no l4l7-peer** コマンドを使用します。

例：

```
apicl(config-connector)# no l4l7-peer tenant 101 out l101 epg e101 redistribute bgp
```

ステップ 9 ルータ設定ポリシーをテナントに作成し、ピアレイヤ 4～レイヤ 7 デバイスにルータ ID を指定し、コンフィギュレーションモードに戻ります。

例：

```
apicl(config)# tenant 102
apicl(config-tenant)# rtr-cfg bgp1
apicl(config-router)# router-id 1.2.3.5
apicl(config-router)# exit
```

ステップ 10 ルータ設定ポリシーを特定のサービスデバイスに関連付け、テナントコンフィギュレーションモードに戻ります。

例：

```
apicl(config-tenant)# l4l7 graph g2 contract c2 subject http
apicl(config-graph)# service ASA_FW device-cluster-tenant 102 device-cluster ASA_FW2
apicl(config-service)# rtr-cfg bgp1
apicl(config-service)# exit
apicl(config-graph)# exit
```

ステップ 11 レイヤ 3 Outside をリーフ インターフェイスおよび VRF に関連付けます。

例：

```

apicl(config-tenant)# external-13 epg e101 l3out l101
apicl(config-tenant-l3ext-epg)# vrf member v101
apicl(config-tenant-l3ext-epg)# match ip 101.101.1.0/24
apicl(config-tenant-l3ext-epg)# exit
apicl(config-tenant)# exit
apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# vrf context tenant 101 vrf v101 l3out l101
apicl(config-leaf-vrf)# ip route 101.101.1.0/24 99.1.1.2
apicl(config-leaf-vrf)# exit
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/10
apicl(config-leaf-if)# vrf member tenant 101 vrf v101 l3out l101
apicl(config-leaf-if)# vlan-domain member dom101
apicl(config-leaf-if)# no switchport
apicl(config-leaf-if)# ip address 99.1.1.1/24
apicl(config-leaf-if)# exit
apicl(config-leaf)# exit

```

ルーティングプロトコル（BGP、OSPF）やルートマップなど、名前付きモードを使用したレイヤ3外部接続（レイヤ3 Outside）の詳細な設定については、『Cisco APIC NX-OS Style CLI Command Reference』ドキュメントを参照してください。



(注) CLIでの外部レイヤ3設定は、2つのモード（基本モードと名前付きモード）で使用できます。特定のテナントまたはVRFでは、すべての外部レイヤ3設定にこれらのモードの1つのみを使用します。ルートピアリングは名前付きモードでのみサポートされています。

ルートピアリングのトラブルシューティング

Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックにルートピアリングまたはデータトラフィックの問題がある場合に、その問題をトラブルシューティングするためにACIファブリックリーフスイッチ上で実行できるコマンドがいくつかあります。

次の表に、ファブリックリーフスイッチのスイッチシェルで実行できるトラブルシューティングコマンドを示します。

コマンド	説明
<code>show ip route vrf all</code>	動的に取得したルートを含む特定のコンテキストのすべてのルートを表示します。
<code>show ip ospf neighbor vrf all</code>	隣接デバイスとの Open Shortest Path First (OSPF) ピアリングセッションを表示します。
<code>show ip ospf vrf all</code>	各コンテキスト内のランタイム OSPF 設定を表示します。

コマンド	説明
<code>show ip ospf traffic vrf all</code>	Virtual Routing and Forwarding (VRF) の各コンテキストの OSPF トラフィックを確認します。
<code>show system internal policymgr stats</code>	特定のリーフスイッチのコントラクトフィルタルールを表示し、ルールのパケットヒットカウントを確認します。

次の表に、`vsh_lc` シェルで実行できるトラブルシューティング コマンドを示します。

コマンド	説明
<code>show system internal aclqos prefix</code>	特定のリーフスイッチの IPv4 プレフィックスアソシエーションルールとルールのトラフィック ヒット カウントを確認します。

シェル コマンドに加えて、トラブルシューティングに役立つ次の点を確認できます。

- デバイスの健全性カウント
- 特定のテナントの下のすべてのエラーと `NwIssues`

CLI を使用したリーフスイッチのルートピアリング機能の確認

ファブリック リーフ上でスイッチシェルコマンドを使用して、リーフスイッチ設定とルートピアリング機能を確認することができます。

ステップ 1 デバイスが接続されているファブリック リーフスイッチで、SVI インターフェイスが設定されていることを確認します。

```
fab2-leaf3# show ip interface vrf user1:global
IP Interface Status for VRF "user1:global"
vlan30, Interface status: protocol-up/link-up/admin-up, iod: 134,
  IP address: 1.1.1.1, IP subnet: 1.1.1.0/30
  IP broadcast address: 255.255.255.255
  IP primary address route-preference: 1, tag: 0
lo3, Interface status: protocol-up/link-up/admin-up, iod: 133,
  IP address: 10.10.10.1, IP subnet: 10.10.10.1/32
  IP broadcast address: 255.255.255.255
  IP primary address route-preference: 1, tag: 0
```

```
fab2-leaf3#
```

インターフェイス `vlan30` には SVI インターフェイス設定が含まれており、インターフェイス `lo3` には外部ルーテッドネットワーク設定に指定されているルータ ID が含まれています。

ステップ 2 ファブリック リーフスイッチの Open Shortest Path First (OSPF) の設定を確認します。

```
fab2-leaf3# show ip ospf vrf user1:global
```

CLIを使用したリーフスイッチのルートピアリング機能の確認

```

Routing Process default with ID 10.10.10.1 VRF user1:global
Stateful High Availability enabled
Supports only single TOS(TOS0) routes
Supports opaque LSA
Table-map using route-map exp-ctx-2949120-deny-external-tag
Redistributing External Routes from
  static route-map exp-ctx-st-2949120
  bgp route-map exp-ctx-PROTO-2949120
  eigrp route-map exp-ctx-PROTO-2949120
Maximum number of non self-generated LSA allowed 100000
  (feature configured but inactive)
Current number of non self-generated LSA 1
Threshold for warning message 75%
Ignore-time 5 minutes, reset-time 10 minutes
Ignore-count allowed 5, current ignore-count 0
Administrative distance 110
Reference Bandwidth is 40000 Mbps
SPF throttling delay time of 200.000 msecs,
  SPF throttling hold time of 1000.000 msecs,
  SPF throttling maximum wait time of 5000.000 msecs
LSA throttling start time of 0.000 msecs,
  LSA throttling hold interval of 5000.000 msecs,
  LSA throttling maximum wait time of 5000.000 msecs
Minimum LSA arrival 1000.000 msec
LSA group pacing timer 10 secs
Maximum paths to destination 8
Number of external LSAs 0, checksum sum 0x0
Number of opaque AS LSAs 0, checksum sum 0x0
Number of areas is 1, 1 normal, 0 stub, 0 nssa
Number of active areas is 1, 1 normal, 0 stub, 0 nssa
  Area (0.0.0.200)
    Area has existed for 00:17:55
    Interfaces in this area: 1 Active interfaces: 1
    Passive interfaces: 0 Loopback interfaces: 0
    SPF calculation has run 4 times
    Last SPF ran for 0.000273s
    Area ranges are
    Area-filter in 'exp-ctx-PROTO-2949120'
    Number of LSAs: 3, checksum sum 0x0
fab2-leaf3#

```

ステップ3 ファブリックリーフスイッチのOSPFネイバーの関係を確認します。

```

fab2-leaf3# show ip ospf neighbors vrf user1:global
OSPF Process ID default VRF user1:global
Total number of neighbors: 1
Neighbor ID      Pri State                Up Time  Address      Interface
10.10.10.2      1 FULL/BDR             00:03:02 1.1.1.2      Vlan30
fab2-leaf3#

```

ステップ4 ルートがファブリックリーフスイッチによって取得されることを確認します。

```

fab2-leaf3# show ip route vrf user1:global
IP Route Table for VRF "user1:global"
'*' denotes best ucast next-hop
'**' denotes best mcast next-hop
'[x/y]' denotes [preference/metric]
'%<string>' in via output denotes VRF <string>

1.1.1.0/30, ubest/mbest: 1/0, attached, direct
  *via 1.1.1.1, vlan30, [1/0], 00:26:50, direct
1.1.1.1/32, ubest/mbest: 1/0, attached
  *via 1.1.1.1, vlan30, [1/0], 00:26:50, local, local
2.2.2.0/24, ubest/mbest: 1/0

```

```
*via 1.1.1.2, vlan30, [110/20], 00:06:19, ospf-default, type-2
10.10.10.1/32, ubest/mbest: 2/0, attached, direct
  *via 10.10.10.1, lo3, [1/0], 00:26:50, local, local
  *via 10.10.10.1, lo3, [1/0], 00:26:50, direct
10.122.254.0/24, ubest/mbest: 1/0
  *via 1.1.1.2, vlan30, [110/20], 00:06:19, ospf-default, type-2
fab2-leaf3#
```

ステップ5 OSPF がデバイス（この例では Cisco ASAv）に設定されていることを確認します。

```
ciscoasa# show running-config
: Saved
:
: Serial Number: 9AGRM5NBEXG
: Hardware:   ASAv, 2048 MB RAM, CPU Xeon 5500 series 2133 MHz
:
ASA Version 9.3(1)
!
hostname ciscoasa
enable password 8Ry2YjIyt7RRXU24 encrypted
names
!
interface GigabitEthernet0/0
 nameif internalIf
 security-level 100
 ip address 2.2.2.1 255.255.255.0
!
interface GigabitEthernet0/1
 nameif externalIf
 security-level 50
 ip address 1.1.1.2 255.255.255.252
!
<<...>>
router ospf 1
 router-id 10.10.10.2
 network 1.1.1.0 255.255.255.252 area 200
 area 200
 log-adj-changes
 redistribute connected
 redistribute static
!
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。